

原発即時ゼロ！

安全・安心守る和歌山県へ

奥村のり子の
県議会だより

和歌山市版

2012年11月
9月議会号

日本共産党和歌山県議団
和歌山市小松原通1-1
電話 425-1138
FAX 425-1143

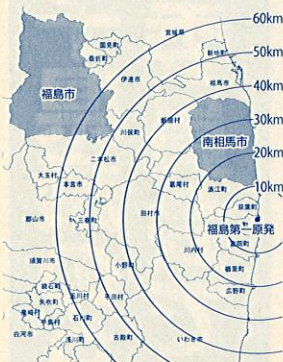
原発事故に苦しむ
福島県へ

奥村規子県議のレポート



9月3日と4日、日本共産党和歌山県議団で福島県南相馬市と福島市へ現地調査に向かいました。

地震と津波被害のうえ、原発事故により、まちを復興させてゆくことすら許されない地域を目のあたりにしました。



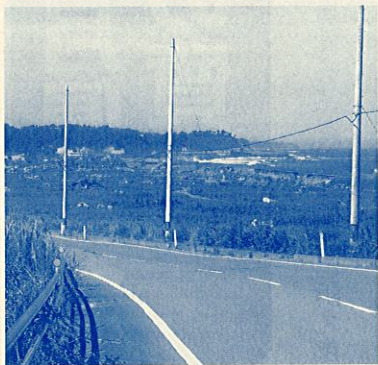
7万人の街が

1万人に

福島第一原発から10km、20km、30km圏内を含む南相馬市では7万人余りの人口が原発事故後、1万人程度になりました。現在は自由に立ち入りできるようになったものの生活はまだできません。

山間部に入ると、持参の放射線量計の警報音が鳴りっぱなしに。線量は山側ほど高い傾向にあります。

市のモニタリングポストでは2・283μシーベルトと表示されていました。ところが、すぐ近くの側溝を測定すると6・21μシーベルトと約3倍の数値。安心して住めるようになるまで気の遠くなる除染作業が必要。



要です。

放射能汚染と闘う

農家の苦労

福島市では桃農家のお話をうかがうことができました。

原発事故以降、農家は田畑や山林に広がった放射能汚染と向き合わざるを得なくなりしました。昨年は桃の木を一本一本洗い除染しました。

県内では少しずつ除染作業が始められていますが、農業の場合、田畑の土を除去することは木の命を絶つことにつながるといわれています。

当局把握の和歌山県
への避難は59人

福島県庁で、原発事故避難者への生活支援などについて県当局にお聞きしました。当局が把握している和歌山県への避難者を



は59人ということでした。子どもの放射線の影響についての検診は避難先では受けられず、福島県に戻らないと検診できないということでした。

日本共産党福島県議団では、子どもたちの健康調査や研究、全県民の検診と医療費無料化などの施策の具体化を、県だけでなく国も一体となつてすすめるべきと奮闘しています。

即時原発ゼロを

今回の調査を通じ、福島県民のつらさや悔しさを肌で感じました。原発事故さえなければ少しずつでも復興が進んでいたであろうという想いを強くしました。

野田首相は昨年12月に福島原発事故の収束を宣言し、なしくずしに大飯原発の再稼働や大間原発建設の再開を強行しています。しかし現地では、原発事故は収束どころか被害が拡大し長期化しています。

和歌山に帰り、「即時原発ゼロ」をめざし全力で取り組むことを決意しました。

奥村のり子県議の9月県議会 福祉環境委員会での質問

御坊市森岡地区の産廃計画 県主催の住民説明会求める

奥村規子県議は福祉環境委員会で、御坊市森岡地区の産廃処分場計画について許認可者である県をただしました。

奥村県議は、計画に対し

周辺の生活環境への支障などを審議するはずである技術アドバイザー会議を2度傍聴したが、住民の意見に対し全く審議していないと指摘。より専門的な検討をして知事に意

見することが必要だと訴えました。

また、県の廃棄物処理計画では2027年度まで大阪湾フェニックスで年10万トンの処分委託が約束されており、県内での処分は必要ないとのべ、少なくとも10年間は産廃処理技術の進歩を待つことができると指摘しました。

さらに奥村県議は、県内



▲福祉環境委員会で質問する奥村規子県議

初の産廃管理型処分場となる計画での遮水シートの耐久性や、漏水検知システムで異常が出た場合の対応、3千食を賄うすぐ近くの給食センターへの粉じんの心配、アスベスト受け入れなど多くの問題を追及。御坊市議会が知事に対し「住民の声を重く受けとめ、不安払拭のために最大限努力を払い」、「真摯に対応するよ



問題に対し事業者の説明のまに答え、県主催の説明会は「現段階では考えていない」として、住民の不安にこたえる立場からは程遠い姿勢を示しました。

う強く求める」という意見書を全会一致であげているとして、県主催で住民に対する説明会を開催することを要請しました。

循環型社会推進課長は、

産廃処分場の建設は、和歌山市滝畑地区でも大きな計画がもちあがっています。県内には必要のない大型民間産廃処分場建設に反対する住民の運動が大きく広がっています。

看護師確保、環境改善、 県内就業対策を

奥村県議は、医療現場で救急患者受け入れの整備が進む一方で、看護体制において厳しい労働環境になっていることを示し、看護師確保や看護業務の環境改善、実習生の受け入れ病院への就業など、対策を求めました。

医務課長は「看護管理者への研修や看護職員の就労環境改善に取り組む医療機関へ

の支援、多様な勤務形態の啓発・導入研修などを行う。実習生の県内への就業促進のため就職説明会など設ける」と答えました。



精神障害者の バス運賃 割引を



奥村県議は、国交省が各

バス事業者に精神障害者も運賃割引の対象になると通知したことについて、事業者が割引を実施していくよ

う県に求めました。

障害福祉課長は「割引実施はあくまでも事業者の判断なので実施するようお願いする」と答えました。

介護保険法改正後の 実態調査を



奥村県議は、介護報酬の実質0・8%マイナスなど介護保険法改正による現場での実態について質問。県独自に現場の話を聞き調査することを求めました。

長寿社会課長は「介護報酬のマイナスで、特養や老健施

設では経営に影響があると聞く。利用者からはサービス時間が60分から45分に変更されたため時間短縮を事業者に迫られると聞く」と実態を報告し、「関係者の意見を聞きながら制度改善を国に要望・提案する」と答えました。

上水道の 耐震化促進を

奥村県議は、上水道の耐震

化について取り上げました。水道施設の耐震化率は全国平均で浄水場が18・7%、配水池が38%、基幹管路が31%と極めて低くなっています。

奥村のり子県議の議案に対する討論

奥村県議は、県内の上水道の耐震化について、簡易水道も含めた実態の把握を要求。ライフラインである上水道の耐震化率を上げるため、国の補助金活用も含め県として重視し取り組むよう求めました。

食品・生活衛生課長は「本県の上水道耐震化率は浄水場が18%、配水池が28%、基幹管路が20%、簡易水道は把握できているもので17%」と全国よりもさらに遅れている現状を示し、「国の補助制度の情報を確認し、市町村に耐震

化を進めるよう連絡する」と答えました。
和歌山市の上水道の耐震化率は、浄水場が0%、配水池が22・3%、基幹管路が36・4%となっています。



情報公開閲覧 手数料導入に 反対

9月県議会では41議案が提出され、日本共産党県議団

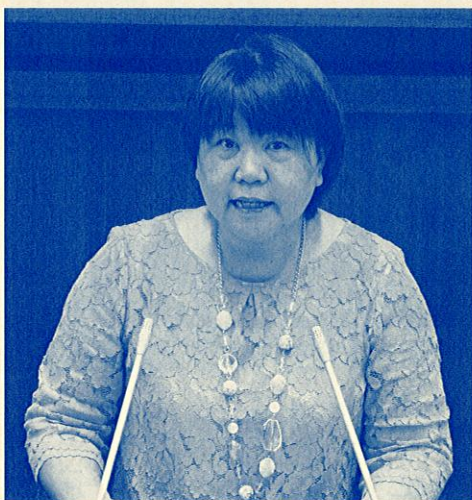
が反対する3議案と「地域主権改革一括法」関係条例案について、奥村県議が討論に立ちました。

奥村県議は情報公開条例改正でこれまで無料だった文書の閲覧に手数料を導入することについて、

加えて、情報公開制度は県政のムタづかいを監視するなどの成果があることを示し、県民にとって使いにくくし、知る権利を抑制する制度改正には反対すると訴えました。

閲覧手数料をとる都道府県は東京都と香川県だけで、静岡県では県民の批判を受け無料にしたことを紹介。県が「不適正請求」と説明する、大

また奥村県議は、消費税増税の受け皿となる県税条例の改正と、災害砂防事業に市町村負担金を求める議案に反対しました。



▲本会で議案に対し討論する奥村規子県議



▲9月県議会について対談する雑賀団長と奥村県議

奥村のり子県議と 雑賀光夫団長のティータイム 9月県議会を 振り返って

奥村 雑賀団長、9月県議会が終わりましたね。今議会でもくらしにかかわる重要なことがありましたか、いかがですか。

雑賀 一番印象的だったのは、最初に質問に立った自民党議員と仁坂知事の、原発再稼働をめぐるやりとりです。原発再稼働なしでは電力はたらない、原発ゼロは非現実的というかけあひみたいなことをやりました。

奥村 そうですね。私たち共産党県議団は、県議会前に福島に行き、現地みなさんの苦しみを目のあたりにしました。毎週金曜にはみなさんと一緒に関西電力和歌山支社の前に立ち抗議行動をしています。原発ゼロの国民の声をどう考えてるのだろうと思いました。



▲関電和歌山支社前での抗議行動に動物代表で参加

雑賀団長は、この県議会では、原発ゼロの立場から、自然エネルギー開発を訴えましたね。

雑賀 3・11大震災、大津波をさかいに、日本のエネルギー政策も大きく変わらなくてはならないのに、原発にしがみついている。財界いいなりの政治から転換しなくてはなりません。

奥村さんは、庶民の立場から医療の問題、消費税引き上げの問題などを追及してきました。

したね。いつも再々質問までねばります。

奥村 県民のための政治を追及していったら県政にとどまらず、国政との関わりが大きいです。民主党や自民党がやってきた、「アメリカいいなり、大企業べつたり」の政治につきあたります。

雑賀 だから私たちは、地方自治体は「くらしを守る防波堤に」と言っています。そのために、県民のみなさんの要求をしっかりとつかんで、ぶっつけなくてはならないですね。

奥村 同時に、その根源にある悪政の本質を国民のみなさんとともに追及することがいっそう大切ですね。

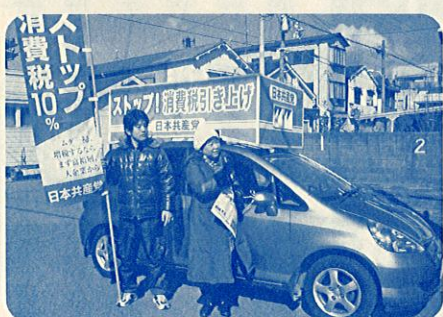
雑賀 そうですね。あつ、もつ時間が足りない。

奥村 いろいろ言いたいことがたくさんあるのにねえ。

雑賀 言い足りないことは、街頭宣伝でやりましょう。奥村さんは、かわいい宣伝カーを新調して、すごいなあ。

奥村 どんどん宣伝に出かけたいと思います。

雑賀 お互いがんばりましょう。



▲県政報告する奥村県議